

「出題の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：推薦入試） 文学部 人間関係学科 （科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>出題の意図</p> <p>本年度の推薦入試の問題は、ジェームズ・ギリガンの「男が暴力をふるうのはなぜか そのメカニズムと予防」（原題 Preventing Violence）の本から出題した。</p> <p>精神科医のギリガンは刑務所での長年にわたる臨床経験から、すべての暴力の背景には「尊重されたい」「自己肯定感を取り戻したい」という、人間としての普遍的な願いがあること、しかし、その願いを実現していくために必要不可欠な非暴力的な資源を自分の内側(教養、技能、業績、職歴など)にも、外側(家族、友人とのつながり、地域社会での地位、最低限の富など)にも保有しておらず、暴力以外の手段を用いて「誇り、尊厳、自己肯定」を取り戻す手段を奪われているためであるとしている。</p> <p>このギリガンの問題提起は人間存在を表面的な行動ではなく、心理学や社会学の知見を踏まえて深く洞察する力が求められる人間関係学科の学生には是非とも知ってほしいという思いがあり、今回の推薦入試の問題に取り上げた。</p> <p>問いの解説</p> <p>問1と問2は、ギリガンの主張を適切に理解した上で、英文の意味を的確に捉えられる力を評価するものである。そこでは、英語の語彙力とともに、前後の日本語の内容から英文の内容を類推できる能力も評価している。</p> <p>問3は、このギリガンの見解を正確に踏まえた上で、「暴力を予防していくための社会的な施策やアイデア」を構想できる独創力、そして、そのような施策やアイデアがどうして「暴力の予防」に機能し、効果を発揮するのか、を論理的に説明できる力を試している。すなわち、論理的な説明力と、暴力という、今日の世界が直面している深刻な課題に対する解決方法を探求、提案できる力を評価するものである。ギリガンの見解から必然的に導きだされてくる「自尊感情の回復」という課題に、実現可能なかたちで取り組んでいく方策を示されている答案を高く評価したい。</p>